

指定管理業務評価結果書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	津山市三世代研修宿泊施設
(2) 指定管理者	所在地 津山市加茂町中原516-1 名 称 (株)津山市加茂町ふるさと振興公社 代表者 代表取締役 大 下 順 正
(3) 公の施設の所管部署	産業経済部経済振興課
(4) 指定期間	平成21年4月1日～平成26年3月31日
(5) 評価対象期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日

2 施設の利用状況

(1) 利用者数等	年間利用者数 9,679人(前年度9,205人)
(2) 事業の内容	津山市三世代研修宿泊施設の管理・運営

3 収支の状況

(1) 収入 (指定管理者の収入)	総額 43,364 千円(前年度44,027千円) 利用料金収入 33,416千円 指定管理料 7,619千円 その他の収入 2,329千円
(2) 支出 (指定管理者の支出)	総額 44,260 千円(前年度43,848千円) 主な支出 施設使用料 3,182千円 人件費 19,955千円 光熱水費 5,459千円 修繕・消耗品費等 1,812千円 負担金・公租公課 309千円 売上原価 10,092千円 支払手数料 406千円 広告宣伝費等 1,046千円 雑費その他 1,999千円

4 総合評価結果

(1) 指定管理者の自己評価	平成23年度当初は、東日本大震災の影響で全国的に自粛ムードが広がった。津山市三世代交流宿泊施設も例外では無く、4月から7月の利用客が減少し、休憩客（宴会等）も減少した。そんな状況下で地道にセールスを続け、8月から年度末にかけて宿泊客及び利用客が徐々に回復していったが、上四半期の遅れを取り戻すまでには至らず、純利益は約89万円の赤字になった。
(2) アンケート調査の概要	宿泊客に対して実施しているが、料理や接客等の評価は良好であり、リピーターを望む意見が多かった。ただ、昨年からの引き続きの意見で、料理単価が高いとの指摘もあった。
(3) 市の評価	前年と比較して、全体としての利用者数は470名程度増加しているが、逆に宿泊数は50名ほど減少している。経費節減にも努めてはいたが、上四半期の遅れを取り戻すまでには至らなかった。しかし、大震災後の自粛ムードの中、全国的に旅館業が苦戦を強いられた年で、約89万円の損失で抑えたことは大変評価できる。 引き続き、インターネットの活用等、情報提供を行い、積極的に施設利用へのPRを行い、高校・大学等のスポーツ合宿客を含め宿泊客・休憩客確保のため、さらなる工夫、努力を求める。